

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2990500049 | | |
| 法人名 | 株式会社 ニチイ学館 | | |
| 事業所名 | ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん) | | |
| 所在地 | 奈良県榎原市醍醐町156番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年2月25日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年5月31日 |

食事に置いては 個々の食事形態にあわせて提供させて頂いております。そして 畑で野菜を利用者さんと作ってます。取りたての野菜を食事に提供させて頂いております。これからの季節は外で食べて頂き同時に季節感も味わって頂いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2990500049-00&PrefCd=29&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成25年3月27日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは職員がそれぞれの思いを出し合い、利用者に静かな環境の中で穏やかに過ごしてもらいたいとの思いを込めた独自の理念を掲げ、利用者に安心して過ごしてもらえるよう日々の支援に努めています。また地域の方の参加を得てニチイ祭りを開催したり、ホームの菜園では近隣住民に教わりながら利用者と共に野菜を育て、畑の収穫物をもらうこともあり、自然な近所付き合いができています。毎月受け入れている介護相談員からはホームに対する率直な意見をもらうこともあり、家族から得られた意見なども含めて速やかに改善に向けて話し合い、サービスの向上や家族の安心に繋げています。職員は各種委員会活動を通して積極的に意見や提案を行っており、管理者は職員の意見を取り入れながら職員の気づきを促し、利用者の立場に立った支援となるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 『安全に安心してそして穏やかに暮して頂く』を目標にして日々のケアに意識して取り組んでおります。 | 職員が其々の思いを会議で出し合い、静かな環境の中で穏やかに過ごしてもらえるようにとの思いを込めたホームの理念を掲げています。安心して過ごしてもらっているか、カンファレンスなどで話し合い確認しています。また地域に向けた案内にも理念を掲載し、ホームの方向性を伝えています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 昨年11月に第2回目ニチイ祭りを開催致しました。地域の方スタッフの家族さんにも参加して頂きました。又地域の方のボランティア踊りの会の皆さんにも訪問して頂いております。 | 地域の清掃に職員が参加したり、幼稚園や小学校の運動会は案内をもらい利用者と一緒に参加しています。地域の方の参加を得てニチイ祭りを開催したり、地域のボランティアが来訪しています。散歩や買い物の際は出会った方々と言葉を交わし、また近隣の方に教わりながら野菜を育てたり、畑の収穫物をもらうこともあり、自然な近所付き合いをしています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 入居の相談やホーム見学に来られた家族様に対して抱えて居られる不安等聞きながら都度対応させて頂いております。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 二ヶ月に1回の会議には状況報告内容についてはスタッフと共に考え充実した会議になるように常に取り組んでおります。そこでの意見をサービスの向上に繋げていけるよう努めている。 | 会議は介護相談員やオーナーなどの参加の下、毎回家族会と合わせて開催し、ホームの現状報告や質疑応答などを行っています。参加者からホームを見て気になる点や感じたことを話してもらい、意見交換の中で相互理解が深まり検討がなされ、サービスの向上に活かしています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の介護相談員さんを受け入れ貴重なご意見を頂いております。そして市の担当者に現場の実情を伝える機会をつくっている。 | 運営推進会議に市の担当者が出席することもあり、ホームの運営状況を知ってもらっています。細かな制度のことなどわからない事があれば、直接役所に向いたり電話で聞き、相談できる関係作りができています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 開放的な環境作りに努めています。又各委員会でも取り上げて意識付けをしています。 | 身体拘束委員が中心となり話し合う機会を持ったり、採用時研修や法人で行われる研修には多くの職員が参加できるようシフトを調整しています。基本的に施錠は行わない方針ですが、状況によっては短時間施錠する場合があります。職員間で弊害について話し合っています。出かけた方には思いに添って一緒に出かけるなど、納得が得られるよう支援しています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | まずスタッフが心身共に元気で働ける環境作りに努めています。そして情報共有し注意を払ってケアに取り組んでおります。 | | |

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修や勉強会に参加し支援出来る様に努めております。又後見人制度を活用している利用者様が居られるので今後とも支援する機会があれば活用して行きたいです。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前後には利用者様家族様には要望を聞いて十分な説明を行い安心して利用いただけるように努めています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 二ヶ月に1回に家族会議及び運営推進会議を開催しています。又家族様には密に連絡を取り要望にお答え出来る様努めております。そして介護相談に訪問して下さっているので終了後は意見交換をしている。 | 家族の面会が多く、利用者の様子を報告する際に意見を聞いたり、隔月に開催している家族会などでも意見や要望を聞いています。リハビリの希望や薬局の支払方法の変更など、出された意見はその都度カンファレンスで改善に向けて話し合い、共通するサービスに繋がるような事案は、全家族に報告しています。また法人によるアンケート調査も実施しています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のホーム会議で有ったり又カンファレンス等でスタッフの個々の意見を聞くように努めている。 | 毎月の会議やカンファレンスで管理者は職員が意見を出しやすいように問いかけたり、各種委員会活動を通してそれぞれの委員が積極的に意見や提案を行っています。得られた意見は実施に向けて話し合い、運営や改善に活かしています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 出来るだけ働き易い環境である事に心がけている。人的環境が一番であると共に出来るだけ個々の話を聞くようにしています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修への参加は出来る限り調整しています。働きながらのトレーニングはその時々併せて必要な声かけを行う努力をしています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 介護相談員派遣事業における三者間連絡会に参加させて頂き同業者との交流を持ち色々な情報を得てサービスの質の向上に努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントをきっちり踏まえ本人や家族のニーズに応えられるように計画を立てて信頼関係が構築できるように努めております。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 十分に要望や意見を聞いたり関係作りに心がけています。そして安心して頂ける様何時でも電話にてお話をさせて頂いたり対応に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 情報を元に話し合い必要なケアをスタッフ一同徹底し行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様から教えてもらう事が多々あります。日常生活の中で何か負担にならないよう役割を持って頂けるよう努めています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の思いを尊重し共に理解し支援できるように努めています又行事にも参加して頂き交流を図っています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会や家族と一緒にの外出に制限は無いことをお伝えし入居前の習慣などが制限されず継続できるよう支援しています。 | 以前の同僚など馴染みの方が会いに来た際は居室へ案内したり、和室を提供しゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。手紙や年賀状と一緒に書きやり取りができるよう支援したり、自宅に戻りたい方や墓参りなどは家族の協力を得ながら出掛け、関係が継続できるよう支援しています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日中は出来るだけフロアーで過ごして頂ける雰囲気作りに努めています又スタッフが利用者様とのパイプ役となり円滑な交流が持てるように努めている。 | | |

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去された家族様より電話を頂いたりボランティアで訪問して頂いたり又畑で出来たものを頂いたり交流を大切に努めています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 共同生活の中で1人では無く個々の思いに沿った関わりが出来る様努めている。行動を強制する事無く自然な状態で1日1日を過ごして頂いている。 | 入居の際は自宅を訪問し、本人や家族からこれまで馴染んだ暮らし方などの生活歴を聞いたり、家の雰囲気も見せてもらい、思いの把握に繋がっています。入居後は利用者のつづきなどをそのまま記録に残したり、カンファレンスなどで全職員で意見を出し合い、思いが汲み取れるよう話し合っています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の面談時本人や家族様からの情報を得よう努めている。入居後も日常の会話からより多くの情報が得られるよう努力しています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日頃の状態を把握し少しの変化にも対応できるように努めています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当スタッフを中心に話し合い介護計画を基にモニタリングを行い現状に即したプランの作成に努めています。 | 利用者や来訪時に聞いた家族の意向を基にサービス担当者会議を開催し、利用者の課題について全職員で意見を出し合い、往診時の情報なども加味し介護計画を作成しています。変化があれば随時カンファレンスを開催し、新たな課題について意見を出し合い現状に合った介護計画となるよう見直しています。介護記録には利用者の計画が記載されており、確認しながら記録ができるよう工夫されています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 業務日誌 介護記録 申し送りなどスタッフで共有しケアに活かせるようにしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 出来る限り本人や家族様のニーズに応えられるようにその人にあったサービスの提供に取り組んでいます。 | | |

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 皆さんが生き生きと暮せるように支援させて頂いております。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 主治医、当診療所との連携を図り協力体制を作り支援させて頂いております。 | 入居時に2カ所あるホームの協力医についても説明を行い、希望があれば協力医を紹介しています。以前からのかかりつけ医への受診の際は利用者の情報をできるだけ書面で家族に渡し、受診結果は家族から報告を受けたり、指示書もらっています。協力医はいずれも定期的な往診があり、家族が来訪時に結果を伝えています。また、協力医は24時間連絡可能となっています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護日誌の情報提供連絡ノートの記載で家族医療介護が連携を取れるよう行っています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際には本人の状態を見ながら病院側との情報交換をしています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 可能な限り長く過ごして頂ける様に主治医や家族様と相談しながら支援に取り組んでいます。 | ホームとしては利用者や家族の意向があり、医療の必要度が低い場合は看取りの支援をしたいと考えています。一日でも長くホームで過ごしたいとの意向を受けて、家族や医師、職員が共に方向性を話し合い、家族が泊まり込んだり、ホーム長がいつでも連絡がとれる体制を整え、その時々で医師の判断を仰ぎながら支援に取り組んでいます。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | AEDの設置、応急手当の講習会や初期対応の訓練を定期的に行い実践力を身に付けているそして年に二回の消防訓練も行っています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練を実施し手順を全員で共有し緊急連絡網も目立つ所に張り出し意識を持って努めています。 | 昼夜を想定した避難訓練を年2回実施し、1回は消防署の立会いの下、避難誘導やAEDの講習、応急処置なども併せて実施し、またホーム独自にも避難訓練を行っています。訓練の際は向かいの家に声を掛けたり、何かあれば協力が得られるよう依頼しています。今後は地域で行われる訓練に参加していく予定としています。 | |

ニチケアセンター榎原醍醐(すずらん)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者様を敬称で呼び 常に傾聴で対応しスタッフ全員で取り組んでいます。 | 職員はプライバシーや接遇に関する研修を受講して学び、実習生が訪れた際にも声の掛け方や対応について伝えています。日常的には敬語を用いて話すことを基本とし、呼び方は家族とも相談しながら個々に合わせて名字や旧姓、先生など利用者が馴染んだ分かり易い呼び方を選んでいきます。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 常に傾聴の姿勢で対応し利用者様を尊重するように努めています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々のスケジュールの中にやって頂きたい事や身体状況を見ながら取り組み支援できる事に努めています。そして充実した1日を過ごして頂ける様にコミュニケーションを取っています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その方が持っているお洒落心を大切にその日の服装を選んで頂いています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 体調や好みに合った食事の提供に努めています。準備から後片付けも利用者様と共にしています。 | 献立は材料を見ながら利用者にも希望を聞いて決め、ササガキや摘んできた土筆のハカマ取りなど、下ごしらえから洗い物まで、利用者ができることを一緒に行っています。職員は介助を行いながら和やかな食事時間となるよう支援しています。近隣のレストランに出かけたり、毎月寿司の出前を取ることや、広い駐車場で昼食やおやつを食べることも利用者の楽しみとなっています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量や水分摂取量も記録して支援しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 朝夕の口腔ケア、昼のうがいは励行そして月2回のデンタル訪問で口腔ケア、マッサージを行っています。 | | |

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 1人1人の排泄パターンを把握し利用者様に合った排泄用品で心地良い自立支援に努めています。 | 日誌に書かれた個々の排泄の記録を参考にリズムを把握して支援したり、布の下着を使用している方はできるだけ長く快適に過ごせるよう声掛けを行っています。失敗があればカンファレンスでその方に合った支援方法を話し合い、夜間はポータブルトイレを使用するなど、時間や状態によって工夫しながら支援しています。オムツで退院した利用者は紙パンツに改善されるなど、自立に向けた支援に努めています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事形態、毎日の水分補給又適度な運動日々の散歩など取り組んでいます。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 希望に応じて朝から入浴して頂く事もあります。又入浴剤も入れて気持ちよく入って頂くよう取り組んでいます。 | 入浴は毎日準備を行い、午前から午後3時頃の間で支援し、希望があれば午後の8時頃までは対応が可能です。入浴は週3回を目安にしていますが、夏場や入浴好きの方には希望に沿って頻度を多く入ってもらっています。浴室に音楽を流したり、季節のゆず湯や入浴剤を使用して香り等を楽しんでもらうなど、入浴が楽しめるよう支援しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 安心して気持ちよく休息したり休んで頂ける環境を整えています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 医師、薬剤師と連携を取りながら個人の薬ケース、薬の説明書を利用し服薬管理を行っています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 出来る事 楽しめる事を見つけて頂き日々のレクリエーションを楽しんで頂いています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 気候の良い日は散歩に出かけるようにしています。外食、遠足、買物等は家族様の協力をお願いしております。 | 気候が良ければ日々散歩に出かけたり、寒い日にも希望があれば一緒に散歩に行っています。ショッピングセンターへ買い物に行ったり、季節の桜などを見に出かけています。またホームの畑に出て世話をしたり、玄関前の広い駐車場で、レクリエーションを行うなど、外気に触れる機会が持てるよう支援しています。 | |

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お小遣いをお預かりしています。希望に応じて使えるように支援しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | いつでも希望に応じて自由に電話連絡出来る環境にしています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者様の生活が家族様にも見えるように色々な作品を展示し季節を感じて頂いています。そして楽しい雰囲気作りに努めています。 | 利用者の書道の作品や一緒に作った季節の作品などが飾られているフロアは、時折利用者の生活に合わせて過ごし易いようテレビやテーブルの配置換えを行っています。ホームにはエレクトーンやギター琴などがあり、楽器が得意な職員が弾きながら歌などを一緒に楽しんだり、広い庭や畑もあり、利用者と草引きなどの世話を一緒に行っています。また空気清浄器を置き、温度や湿度の管理を行い、利用者が過ごし易いよう配慮しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアの1部に椅子を置き 又和室でお友達と会話したり1人でも気楽に過ごせるように配慮しています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 愛着の家具を持参してもらい その人らしい生活の空間作りに努めています。 | 入居時にこれまで使っていた馴染みの物を持って来てもらうよう家族に伝え、利用者はベットやテレビ、カラーボックス、使い慣れた机や椅子などを持参され、家具の配置もできるだけ自宅と同じようになるよう配置しています。家族の写真やラジオなど、利用者の大切な物も持参してもらい安心して過ごせるよう配慮しています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | スタッフが見守る中それぞれの身体機能に適した形で安全かつ 出来るだけ自立した生活が送れるようにしています。 | | |